

(開始 午前10時28分)

議長 (勝山 正)

1 番 関 達夫 議員。

(「はい、議長。1番。」の声あり)

(1 番 関 達夫 議員 登壇)

1. 持続可能な農業を育む

1 番 関 達夫 議員

議長から発言を許されましたので、6月村定例議会行政事務一般質問を通告に基づき、行わせていただきます。

私はこの村が農業立村ということを宣言している中で、農業が元気、地域が元気をライフワークとしているわけであります。そんなところでですね、本日は堆肥センターについて、また、役場職員の働き方について、また除雪関係についてということで、ご質問をさせていただきと思いますので、よろしく願いいたします。

はじめに、持続可能な農業を育むということで、堆肥センターの関係について、質問させていただきます。

今、農業生産に関わる飼料、肥料、農薬すべてのものが価格高騰しております。特に酪農に関しては、飼料の高騰により危機的な状況に置かれております。

昨年8月、生乳1kg当たり10円の値上げがありましたが、6千戸ほどある北海道の酪農地帯では、3月13日に廃業が809件あると報道がございました。今も増えているということであります。本村にも、4戸の皆様が経営を継続中であります。厳しさははかり知ることはできません。

昨年村では、飼料高騰対策等々で600万円の補助金が支出されました。しかし、諸外国との貿易協定等々によりまして、生乳換算で13万7千トンの乳製品が輸入されているのが現実であります。食の安全保障上も大変問題があるわけでありますけれども、自由輸入の乳製品、これを含めると全国で469万トンということが報道されております。今の国の農政はどこを向いているのか、何かがおかしいのではないかと私は思います。

この8月には乳価が10円ほど引き上がる予定とのことであります。生乳の値段が引き上げられることは歓迎なんですけど、飲まなくなり消費が減ることが心配と農家の方はお話されます。

今の状況は、そういう酪農の状況でありますけれども、さて、経営維持のために酪農の糞尿処理の問題がございまして。解決のために役場や関係者が苦勞されて、紆余曲折の末、今のところで施設が建設されたところであります。同時に有機の里という発信により、製造堆肥の利用が農家に浸透し、このことは、酪農を営まれている皆さんへの支援もあったのではないかと私は思います。今まさに肥料価格の高騰のとき、堆肥の利用を再確認したいと思います。

農業で成り立つ本村は、環境に優しい循環型の農業、消費者嗜好に合った有機栽培の農業、農産物を積極的にPRすべきと思います。ブランドとは消費者の価値判断でございます。多くのステークホルダーの理解を得ることで評価され、農家の収入アップに繋がるのではないかと私は思います。

伺います。

堆肥センター運営に当たり、南鴨区ほか近隣の区との協議の場がもたれていると思いますが、どんな方法で対処していかれるのか、お考えをお聞きしたいと思います。

また、センターの存続は、きのご農家と酪農農家の支援のためにも、廃止は絶対すべきじゃないと考えておりますが、今の考えをお聞きしたいと思います。

また、牛乳の消費拡大の施策等々はお考えかどうか、お考えをお聞きしたいと思います。

以上であります。

議長 (勝山 正)

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

はい。それでは、関 議員の持続可能な農業ということですが、堆肥センターについてのご質問にお答えいたします。

畜産を始めとした農業を取り巻く情勢についてはおっしゃるとおり、原料高、飼料高等で非常に厳しい状況であります。また、有機の里として地域循環型農業の実践についても、農業の在り方として、将来共必要と捉えております。

持続可能な農業を営むということで、堆肥センターの継続をすべきということですが、堆肥センターについては、これまでもご説明してきましたとおり、施設の老朽化による継続性というところが課題となっております。大きな問題として、臭いを出さない密閉型方式のため、結露による著しい劣化が進んでおり、劣化診断の結果では現状のまま稼働した場合、令和8年度までは稼働ができるという結果となっております。また、職員の働く環境としても決して良い状況ではなく、施設の老朽化に伴う機能低下とともに労働環境は悪くなっている状況について、ご理解をいただいているところであります。

施設の方針としては、密閉型施設ではかかる維持管理経費、労働環境を考えた場合大変難しいものと捉えております。そのため、外気を十分に取り込み、早い段階で好気性発酵が進められるように開放型施設にしていくことが、持続可能な地域循環型農業の実践に繋がっていくものと考えております。

しかしながら、開放型施設にしていくには、地元関係者の皆さんとの協議を進める必要があります。村の方針だけでは難しいところもありますので、近く周辺区の皆さん、役員さんにご相談させていただき予定としております。

いずれにしても、必要な施設として理解をしております。持続可能な施設として継続していくには、周辺の方々への配慮はもとよりご理解をいただく必要があり、現段階では施設の継続性を考えて密閉型ではなく、開放型施設にしていくことを優先にして考えております。

牛乳の消費拡大については、村レベルではなかなか難しいと考えておりますので、JAや経済連等の対策としてお願いしていきたいと考えております。また、村としては、保育園や学校給食で毎日牛乳を提供しております。

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

再質問をお願いいたします。

堆肥センターは確かに臭いの問題と捉えがちでありますけれども、臭いのみの問題ではなくてですね、木島平村の農業を維持・持続・発展させるためにこの堆肥は必要なんだと、そのようなことを消費者に求め、うまい農産物を作るものであるということを広報すべきだと私は思います。臭いもブランド品とは言いませんけれども、そんなふうを考えます。

村には農業者の方もおられるし消費者の方もいらっしゃいます。両方にですね、このことの必要性を理解してもらうような手法をぜひ考えていただきたいと思います。

それと、今、村長の答弁の中で開放型というようなことお聞きしておりますが、それは今のところへ更新を予定されるのか。あるいは他の場所を模索、想定されているのでしょうか。施設は後2、3年とお聞きしておりますけれども、更新にあたりですね、2、3年あるのでうちちょっと先というご理解かもしれませんが、予算的などころはご検討されているのかどうか、お考えをお聞きしたいと思います。

います。

よろしくお願いいたします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

臭いと資源循環型農業の関連でありますが、これについては、現在の堆肥センターの周辺区の皆さんについても、その辺を資源循環型の農業を推進するため、村の農業の発展のためにということをご理解いただいていると。ただ、臭いについては、やはり当事者とすれば、大きな生活の環境の問題であるということで密閉型というものについては、言ってみれば、双方の理解の範囲内の形で堆肥センターを建設したということでもあります。お互いにそういう信頼関係がなければ、堆肥センターそのものの維持は難しいだろうと考えておりますので、理解はしていただいても、やはりその先に個々の課題があるということをご理解いただきたいと思っております。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から2点の再質問にお答えいたします。

開放型にするに、今の所にするのか、また別の場所にするのかというご質問でございます。

基本的には今の場所で開放型にできるのが一番手間的にも予算的にも、良い所だとは思っております。今まで申し上げたとおり、地域住民の方々のご理解を得られるかというところが大きな課題であると考えております。また、別の場所ではということでございます。現時点では、今の規模で別の場所というのは大変厳しい、難しいと考えておりますので、基本的には今の場所であることを前提で進めさせていただきたいと考えております。

予算的なものでありますけれども、現状、今の所で開放型にしたらというところで、おおむねの概算の予算的なものは把握しておりますけれども、まだ、中の施設をどういうふう具体的に変わっていくかとか、設備をどのようなものにしていくかというところは、これからの検討でございます。

1番 関 達夫 議員

これは答弁いただかなくて結構でありますけれども、先週6月1日は牛乳の日、世界ミルクデーということで新聞報道等もございました。また、6月18日は父の日ということでございますので、父の日にはですね、ぜひ牛乳を飲んでいただきたいと、このようなお願いを皆様をお願いしたいとこんなようなことで思います。

議長（勝山 正）

答弁はなしでいいですか。

1番 関 達夫 議員

結構です。

2. 職員のキャリアアップと村民の満足度は

1 番 関 達夫 議員

つづきまして、働き方等々について若干お聞きしたいと思います。

村長の施政方針に、村民生活の向上と安心して暮らせる持続的な村づくりを目指すとあります。それを実行するのは職員の皆さんです。誇りを持って日々業務をされていることに敬意を申し上げますが、各管理職の皆さんは、配下の職員をどのように育て、指導され、やる気を出させ、業務を処理されているのでしょうか。職員がやりがいを感じ、村を発展させることの前面に立ってほしいと思います。

また、災害の発生時、不祥事の未然防止などに対処すべく、内部統制、リスクマネジメントをどのように行い、職員を指導されていますか。また、そのための内部業務監査等々は実施されているのでしょうか。

企業の社員人事評価、人事考課では、各自の持つ能力と努力をもって個々の目標設定した仕事を日々こなしていきます。会社は、その内容に応える評価をいたします。そのことは昇給、昇格対象などになり、そこに仕事のやりがいを感じ、企業価値を上げます。それらは企業の掲げる理念、マネジメント力によるところと思います。

村では、評価制度はすでに取り組み中とお聞きしますが、管理者の方は、制度自体をどう評価し、業務の効率を図って、職員の能力を引き出されていますか。役場と民間企業とは違うのでしょうか。村は、民間の持つ活力、資金力、潜在力を評価し、期待するとして、観光施設等々を譲渡処分いたしました。今回それらを含めて企業評価し、実施されたと思います。

企業は人なり、役場も人となりだと思います。村民の負託に応える職員のやりがいをどう育てていくか、スキルをどう上げていくか、手法をお聞かせいただければと思います。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

それでは、職員のキャリアアップと村民の満足度ということですが、急激に進んでいる人口減少や少子高齢化、私達の生活に直接大きく影響する物価や資材の高騰、更にはデジタルトランスフォーメーションの推進など、社会情勢が大きく変化する中で、村の職員に求められるスキルは大変多様化、高度化してきております。

議員ご指摘のとおり、職員のやりがいを育むことは職員自身のスキルアップ、キャリアアップはもちろん、結果として組織の成果に繋がる大変重要なことと考えております。

村では、木島平村人材育成基本方針に基づいて、職員の意識改革、意欲や能力の向上、自己啓発の一層の推進のため、職員研修や人事評価などを実施しております。管理職員等が自ら積極的に所属職員とコミュニケーションを取り、職員と共に日頃の業務や課題解決に向けて取り組むことにより、その職員の能力や業績などを評価し、その評価が職員一人一人のやりがいに繋がるよう、今後も継続してまいります。村民から信頼される職員を目指して、人材育成に取り組んでまいります。

具体的な研修等について、総務課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは私の方から村長の答弁に補足して、人事評価並びに職員研修等についてご説明いたします。

まず、人事評価でございますが、年1回の能力評価と年2回の業績評価を現在行っております。

人事評価については、職員の能力、実績に基づく人事管理を進める上で必要な手段であるとともに、評価の過程において、職員自身が自らの強み・弱みを把握して、自発的な能力開発を促すことに繋げるなど、人材育成の意味も有しております。組織内の意識の共有化と、組織力の向上に寄与するものと考えております。

能力評価については、その職員の職位に求められた職務行動がとれたかどうかを評価するもので、公務員倫理、知識技術の習得、コミュニケーション能力、業務遂行力などについて評価をしております。

また、業績評価については、評価者と被評価者において、期首における業務目標、業務の進め方を定め、職員がどれだけ目標を達成し、成果を出したかを評価してございます。また、職員の挑戦的な取組を促し、やりがいを持って業務に取り組めるようにする観点から、業績評価項目に、困難度の高い目標をチャレンジ項目として設定し、評価者は目標の困難度を踏まえ、達成度合い、貢献度合いや業務遂行に当たっての創意工夫、目標以外の取組状況も評価の対象としております。

人事評価の結果につきましては、議員もおっしゃられておりましたが、職員の手当、昇給、昇格へ反映することとしており、今後も評価者と被評価者のコミュニケーションが十分取れた人事評価を進め、職員及び組織のパフォーマンス向上に努めてまいりたいと考えております。

職員研修についてでございますが、村長答弁にもありました少子高齢化の進展や人口減少、厳しい財政状況に加え、住民ニーズや価値観の多様化する中で、高度な専門知識と豊かな経営感覚を備え、住民福祉の向上と地域振興に寄与する人材育成が必要であり、研修機関で研修が実施されております。自立的かつ戦略的に地域における事務遂行することができる職員育成を目指して進めております。具体的には、長野県市町村職員センターや全国市町村研修財団で行われている研修のほか、それぞれ職務職階において職員を研修に参加させております。

説明については以上でございます。

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

再度お伺いさせていただきたいと思っております。

人事評価を行い、一人一人のやりがいを高める評価をしているというお話でありますけれども、不祥事の未然防止など、あってはならない事柄について、コンプライアンス、あるいはリスク管理マニュアルなど研修を厳正に行っておられるようでありますけれども、業務監査等々の中でですね、個々の職員の机の中も、時としては監査の対象になり得るというふうに私は思います。そういったことをやっているかどうか、性善説は駄目なので、そういったこともお聞きしたいと思います。

また、やりがいは一人一人、確かに能力、考え方それぞれ違うところであります。今の仕事はどういうものなのか、どういったことをやっているのか、ここを改善すれば村民に対して良いのではないのか、今の仕事を分解し、改めて組み立て直す、そして目標を立て直す、1年の前半、上半期はこのことを最大の目標として取り組むんだ、そういったことを上司と目標を話し合い、確実に確認する、これが一番大事かというふうに思いますが、達成ができたとき、それは満足感となりやりがいを感じるのではないかなと考えます。

いずれにしましても、村民の満足度を上げていただくように、日々ご精進をお願いしたいと思います。

今、第7次の村の計画を立案中ということでございますが、こういったことをですね、ぜひ反映させていただいて、暮らしやすい、皆が住みよい村をつくっていくようお願いしたいかなんていうふ

うに思います。お考えもあつたらお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

職員がやはり自らスキルアップし、そしてまた、効率を高めていこうと、それはすなわち、やはり村民サービスの向上に繋がるわけであります。そしてまた、村民からの評価が、さらにまた職員の能力アップ、スキルアップに繋がっていくという、言ってみれば、公務員としてのそういう仕事柄のサイクルをしっかりと作り上げることで、信頼される村民が、更に自分自身の力を高めていけるようにそのために職場内での意思疎通、それからまた、お互いに励まし合う、教え合う、そういう指導力ですね。その能力を高めていくようにしてまいりたいと考えておりますので、またご意見ありましたら、よろしくお願ひ申し上げます。

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

3. 除雪体制の見直しを

1番 関 達夫 議員

続きまして、除雪に関してお伺いさせていただきたいと思ひます。

温暖化のためにすね、気候の変化が激しい昨今でございます。雪国木島平村も、降雪量が多いとき、少ないとき、いろいろございますが、積雪を目の当たりにしている住民にとって大きなハンディキャップと実感することは多いと思ひます。少子化、若年層の村外への流出に大きく影響を与えている、そんなことを考えます。

村の第6次の振興計画に、これからも住み続けたいと思ひ、みんなで村づくりを実践してきたところでございます。人口減少を止める手立てがなかなか見つからないのは、この雪によるところが大きいのではないかと思ったりしております。

各区配布の除雪実施計画書を、目的を再確認し、検証を加え、現状把握され、路線、人員体制などの見直しを考えないのか、考えられないのか、お聞きしたいと思ひます。

また、直近ではこの計画書は、見直しはいつ頃されたかどうかもお聞きしたいと思ひます。

各区長さんを通じてすね、除雪の依頼を受けていられると思ひますが、その都度ご要望にお応えされているんだと思ひますけれども、降雪量が多いとき等々すね、どのぐらいの皆さんが電話でのご依頼があるかどうか。判る範囲で何件ほどあるかをお願ひできればと思ひます。

村内各地は降雪量に差があり、朝7時までに除雪を終了するとありますが、各作業員任せで遅れ等々はないのでしょうか。そういったこともお聞きしたいと思ひます。

以上であります。お願ひします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

除雪計画につきましては、安全で円滑な冬期交通の確保を図る、大規模な通行止めが生じないよう、また、一定程度の旅行速度が保たれるよう高速道路や国・県等が管理する道路も含め、それぞれの道

路管理者の取組で行われております。村でも除雪実施計画を策定しており、これに基づいて主要道路を主体として通勤・通学の確保、物資の輸送やバスの運行に配慮するとともに、住民生活上必要な路線について除雪を行っております。

安定した除雪体制を維持するため、特に集落内道路につきましては、突出し箇所の確保が大きく除雪効率に影響を与えますので、毎年区長会等で集落内の雪の突き出し箇所の確認とともに、継続的な利用の調整と、更なる拡大をお願いしているところであります。

これらの確認作業も含め、除雪計画については毎年見直しを行いながら、安全で効率的な体制で道路除雪ができるよう改善しながら進めておりますので、よろしくお願いいたします。

除雪時の除雪対応の状況については、建設課長に答弁させます。

議長（勝山 正）

小松建設課長。

（建設課長「小松宏和」登壇）

建設課長（小松宏和）

村長の答弁に補足しまして、2点のご質問にお答えいたします。

1点目の、各区長を通じ除雪の依頼をしているが、その要望に込えているか。降雪時多いときで何件の電話依頼があるかにつきましてですが、早朝の新雪除雪につきましては、村の監督員及び委託路線の業者が積雪状況を確認し、出動基準にある場合には除雪作業を行いますので、各区長の依頼に基づく除雪の出動体制ではございません。

また、路面整正や圧雪処理等についても、道路パトロールによる現地確認により計画的に行っていますが、除雪作業のタイミングにより、区から依頼を受ける場合がございます。このような場合には、その都度作業状況を説明するとともに、作業対応しておりますので、依頼件数等の統計はとっておりません。

2点目の、各地は降雪量に差があり、朝7時までには除雪を終了するとあるが、各作業員任せで遅れないかにつきましては、早朝除雪の場合には、通常は午前3時除雪開始で7時の完了を目安としております。継続した降雪や大雪の場合など、除雪作業に時間を要することが想定される場合には、午前7時の完了を目標に、午前2時やそれよりも早い時間に作業に入る場合もございます。豪雪の場合などでは予想以上に時間を要する場合も実際にはございますが、そのような状況もございます。

また、降雪が続いている場合、早く除雪した個所では、7時頃には雪がまた積もってしまうこともあることをご理解願います。道路除雪に当たっては、最大限の対応で作業にあたっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、作業員任せという内容もございますが、村内各所で最大24台の除雪機械が同時に除雪作業を行っております。それぞれの作業状況の把握は非常に困難でありましたが、昨年度からは除雪管理システムを導入し、除雪車の位置情報をリアルタイムで確認できるようになっています。今後もデータ蓄積により効率的な除雪体制がとれるよう進めてまいります。

議長（勝山 正）

関 達夫 議員。

再質問

1番 関 達夫 議員

もう一度お願いしたいと思います。

除雪計画書、冬の村道安全確保のためにという厚い冊子でありますけども、ここにいろいろ要綱が書かれております。目的を再確認し、現状に合わせてですね、見直しをお考えいただければと思いま

す。私はすべきではないかなと思ったりするんですが、確かに状況等々は刻一刻と変わるし、除雪のオペレーターの皆さん大変苦労されているのだと思います。

在の方に住んでおりますと、7時過ぎには家を出ると子供たちがおります。歩道等の除雪をされているわけじゃないし、道路を歩いていかなければならないということで、大変厳しいかなと思ったりしております。

苦情ではないですけども、いろんな電話も役場へ届いているのかなと思うんですけども、前回頂いたこの計画書ですが、私のところで2冊になりました。いろいろと見てみるんですが、ほぼ一緒ですね。いずれにしましてもそういったところ、いろいろな皆さんのご意見を聞きながらですね、見直し等々をしていただければ良いかなと思います。

その辺はいかがでしょうか、お伺いしたいと思います。

議長（勝山 正）

小松建設課長。

（建設課長「小松宏和」登壇）

建設課長（小松宏和）

それでは、関 議員の再質問にお答えいたします。

村長の答弁にございましたとおり、それぞれの状況につきましては、毎年除雪計画の見直しを行っております。除雪路線の見直しにつきましても、それぞれ開いていけば便利だということも、必要なければ省略するというようなことも最近行ってきております。

除雪の突き出し箇所につきましても、毎年各区長にお願いしまして、それぞれのものを反映しながら、改善しているということでございます。

除雪のGISシステムも導入いたしまして、それぞれ遅れている部分の除雪につきましては、違う線から入れるということも、実際には昨年度から行ってきておりますので、効率的な作業に向けて対応してまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

議長（勝山 正）

以上で、関 達夫 議員の質問は終わります。

（終了 午前11時02分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩いたします。

開始時間は、午前11時10分でございます。

（休憩 午前11時02分）